

# 事務事業評価シート

(平成 25 年度実施事業)

事務事業名	姉妹都市等国際交流事業			事業コード	0113
所属コード	046800	課等名	市民部市民協働推進課文化国際室	係名	
課長名	岡市 和敏	担当者名	関田 あい	内線番号	2157
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

## 1 事務事業の基本情報

### (1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	心がつながる相互理解	コード	3
	施策	多様な国際交流・地域間交流の推進	コード	3
	基本事業	国際交流事業の推進	コード	
予算費目名	一般会計 2 款 1 項 1 目 姉妹都市等国際交流事業 (013-01)			
特記事項				
事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度 <input type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	年度	
根拠法令等	昭和 60 年 5 月 23 日に調印したカナダ・ビクトリア市との姉妹都市提携			

### (2) 事務事業の概要

諸外国からの要人来訪への対応やカナダ・ビクトリア市との姉妹都市交流を通じ、市民の国際交流の活発化と国際理解の促進を図る。

### (3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

昭和 60 年に姉妹都市を提携したビクトリア市との交流や、平成 5 年に開催したアルペンスキ一選手権の成功に向け、国際交流に関する市民の関心が高まったことを受け、平成 3 年「盛岡市国際交流指針」が策定された。また、「盛岡市総合計画 “共に創る元気なまち県都盛岡”」にも国際交流の推進が位置づけられ、推進が図られている。

### (4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

平成 25 年度においては、ビクトリア市長一行、前ビクトリア市長一行が来盛し、市民交流や経済交流を図ったり、ビクトリア盛岡友好協会会長夫妻が来盛し、ビクトリア市産材のベンチを寄贈するなど交流が図られた。また、パラグアイ・イグアス岩手県人会が創立 50 周年を迎え、市長が現地を訪問し、記念式典に参加し祝意を表した。

## 2 事務事業の実施状況 (Do) . . . . .

### (1) 対象 (誰が, 何が対象か)

在住外国人を含む市内に住むすべての人と盛岡を訪れた外国人

### (2) 対象指標 (対象の大きさを示す指標)

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	26年度 見込み
A 盛岡市民(市内在住外国人を除く)	人	298,853	299,220	299,220	299,585	299,585
B 市内在住の外国人	人	1,288	1,273	1,273	1,300	1,300
C 盛岡を訪れた外国人(宿泊者)	人	4,893	5,136	5,136	7,371	7,371

### (3) 25年度に実施した主な活動・手順

- ・国際交流推進体制の確立
- ・国際交流事業の推進
- ・国際協力活動の推進のため諸外国からの要人来訪対応事務

### (4) 活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 計画	25年度 実績	26年度 目標値
A 諸外国要人来訪件数	件	10	4	10	0	10
B カナダ・ビクトリア市からの訪問団受入日数	日	5	0	5	15	5
C						

### (5) 意図 (対象をどのように変えるのか)

姉妹都市であるビクトリア市との交流はもとより, 盛岡市に居住あるいは訪れた外国人と市民との交流を進め, 国際交流活動に積極的に参加してもらう。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	25年度実績	26年度目標値
A 諸外国要人来訪人数	■上げる □下げる □維持	人	46	36	36	0	36
B カナダ・ビクトリア市からの訪問団等受入人数	■上げる □下げる □維持	人	2	53	25	9	9
C	□上げる □下げる □維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	25年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	255	2,947	3,593	2,299
	⑤その他(国際交流基金)	千円	0	6,822	4,610	4,618
	A 小計 ①～⑤	千円	255	9,769	8,203	6,917
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	880	2,020	2,020	2,020
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	3,520	8,080	8,080	8,080
計	トータルコスト A+B	千円	3,775	17,849	0	0
備考						

3 事務事業の評価 (See) . . . . .

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

結びついている。

理由：姉妹都市のビクトリア市をはじめとする諸外国との交流は、互いの国を知るよい機会になっており、国際交流の推進に結びついている。

② 市の関与の妥当性

妥当である。

理由：要人の公式訪問や諸外国の行政機関とのやり取りは市が行うべきである。

③ 対象の妥当性

現状で妥当である。

理由：盛岡市内の国際交流活動を活発化させるという基本事業の意図と結びついているため。

④ 廃止・休止の影響

影響がある。

その内容：国際交流や国際協力のための場が少なくなる。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

向上余地がある。

その内容：より国際交流を身近にするため、多くの市民が参画する交流を進める。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

特定の受益者はいない。

(4) 効率性評価

既に最小限の経費で事業を行っているため、事業費を削減することはできない。

**4 事務事業の改革案 (Plan) . . . . .**

(1) 改革改善の方向性

ビクトリア市との姉妹都市提携が四半世紀を経て、それなりの実績を積み重ねているが、行政主導の交流が多いことから、今後は芸術・文化やスポーツ等広い分野での交流を活性化するための方針を検討する。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

平成 24 年度から教育委員会の協力を得て、ビクトリア市に関わる給食の提供を開始したことにより、小中学生に対しての姉妹都市の周知は行えているが、市民の認知度を向上させしていく必要がある。ビクトリア市についての周知を一層図るとともに、今後の交流のあり方を市民とともに検討し、多様な分野での交流を進めることで、よりよい姉妹都市関係を築く。

## 5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

### (1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

### (2) 全体総括・今後の改革改善の内容

ビクトリア市と昭和 60 年に姉妹都市協定を締結し、来年 30 周年を迎える。協定締結当時は、社会のキーワードのひとつとして「国際化」があり、この間自治体の姉妹都市交流が大きく進んだが、世界の情勢も変化してきており、自治体交流の意義を再検討する必要がある。

姉妹都市交流を通じて市民の国際感覚の醸成を支援することが目的のひとつであるが、どのようにして市民交流や民間団体の交流をより活発にできるか、有効性の面で検討の余地がある。